

令和4年11月1日(火)



本日の昼休みの時間に、アルミ缶回収の表彰を行いました。小・中学校回収協力者表彰ということで、全国41校の優秀校の一つに、手ノ子小学校が選ばれました。今年度は県内1校だけと、とても名誉ある賞を頂きました。

設立から50年近く、アルミ缶のリサイクル活動を推進していらっしゃる「アルミ缶リサイクル協会」の部長さんに、わざわざ東京からお越しいただきました。そして、いつもアルミ缶回収でお世話になっている長井市の「北原産業」の総務部長様にも、お忙しい中お越しいただきました。この場をお借りして、改めて感謝申し上げます。

アルミ缶リサイクル協会の部長さんには、アルミ缶60個分を溶かして固めた1kgの再生地金を見せていただきながら、①「エネルギーを節約できる」、②「資源を大切にできる」、③「ゴミを減らすことができる」といった、アルミ缶リサイクルの3つのメリットを教えてくださいました。

代表委員会委員長のお礼の言葉には、「今年度、ぼくたちは、文化祭で地域の方にチラシを配り、地域と協力してアルミ缶回収に取り組んできました。また、5・6年生は、SDGsについて見学に行き、環境問題をテーマに学習しています。これからも、リサイクルについて勉強して、地球環境を守ることに協力できるようがんばっていきたいと思います。」という抱負が含まれていました。

世界に視野を広げると、ウクライナ侵攻で、エネルギーや資源の不足が心配されています。そのような中、日本のアルミ缶リサイクル率は、今年6月末の調べでは97.6%と、ドイツに次いで高くなっています。資源の少ない日本において、これからも、持続可能な社会の実現に向けて、SDGs未来都市飯豊町でのリサイクル活動を大切にしていきたいと思います。

令和4年11月11日（金）



昨日、飯豊町教育委員会の学校訪問があり、お忙しい中、熊野教育長様をはじめ7名の方々にご来校いただきました。

はじめに校長から、今年度の重点目標達成のための具体的な取組についてプレゼンテーションしました。

その中で、社会に開かれた教育課程の実現に向けた今年度の特徴的なカリキュラム・マネジメントである、①日課時限表の見直し、②学習発表会の発展的解消、③地域の観光資源・教育資源を活用した行事の見直しについて説明しました。

教育委員の皆様からは、「放課後の使い方など大変メリハリのある教育活動で、アイデアも盛りだくさんで、楽しく学校生活ができるような対応をいただいている。先生方の努力、チームワークのおかげ。」

「中津川地区の文化祭に来てくれて、学校の様子、先生方のやり取りに親しみを感じた。活力ある学校であり、地元としても素晴らしく喜んでいて。がんばり過ぎではないかと心配するくらい。」

「『大人の思いが強すぎて、子どもたちの負担になっていないか』という保護者の意見があったということが気になった。盛りだくさんの活動の反面、先生方の時間外などの働き方改革を着実にされていて、コーディネートの上手さに感心した。」
といったご意見を頂戴しました。

最後に、熊野教育長様からは、

「8月3日の豪雨の後、暑い中ピロティの復旧作業をしている先生方を目の当たりにした。人数は少ないが学校としての仕事量は変わらない。先生方一人一人の負担が大きいにも関わらず、前向きに働いてくれていることに感謝したい。社会力を育む様々な取組については、子どもたちがお客様になっていないか、子どもたちが臨む活動になっているか、子どもたちが何か得るものがあるかを常々検証してほしい。」
といったご指導を頂戴しました。

今後の学校経営の方向性についてご示唆いただきましたこと、この場をお借りして改めて感謝申し上げます。

令和4年11月24日(木)



一昨日の22日(火)に、3・4年の総合的な学習の時間のゲストティーチャーとして、1学期に白川ダム一日管理所長体験でお世話になった管理支所長様と所員の方が来てくださいました。

「豪雨時におけるダムの働き」というテーマで、8月3日豪雨の際、白川ダムはどんな様子だったか、ダムの6つの役割の1つである「洪水から守る」働きについて、小学生にも分かるように資料を使って丁寧に説明してくださいました。この場をお借りして、ご準備に改めて感謝申し上げます。

ダムによる洪水調節の仕組みについては、台風や大雨による洪水が起きやすい季節は、洪水に備えてポケット(容量)を空けておくこと、洪水の際は、洪水を貯めながら、安全な量を下流へ流すこと、洪水の後は、次の洪水に備えて水を流し、再びポケット(容量)を空けておくことを説明してくださいました。ただし、異常な大雨により、想定よりも大量の洪水がダムに流れ込んだ場合は、下流に流す量を徐々に増やし、ダムに入ってくる量と同じ量を下流に流す「異常洪水防災操作」を行わなくてはならない場合もあることを教えてくださいました。

この度の8月3日豪雨の際は、線状降水帯が発生し、国土交通省の椿雨量観測所で、観測史上第1位の474mmの24時間雨量を記録したこと、白川ダムは約1079 m^3 (東京ドーム約8.7杯分)の水を貯め込み、椿観測所地点で約0.49mの水位を低減させる効果があったことを説明してくださいました。また、ダム下流の小白川に架かる大巻橋の落橋により行方不明となった方を検索するため、検索時間帯はダムの放流量を絞り込む「特別防災操作」を行っていたことも説明してくださいました。

説明後、子どもたちからの質問にも答えくださいました。子どもたちは、白川ダムへの最大流入量の第1位は8月3日ではなく、6月27日だったことを知り、その日実際に避難したことや、7月12日に白川ダム一日管理所長体験で船に乗った際、大量の流木を見たことなどを各々が思い出していました。